

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	青木村産にんにく普及・振興事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人あい・友 長野県小県郡青木村殿戸 206-3 [本部] 東京都渋谷区富ヶ谷 1-38-5
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 イ 農業の振興と農山村づくり 同 オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ハード・ソフト
総事業費	4,045,230 円 (うち支援金: 2,845,000 円)

事業内容

芽子にんにくは、りん片(1片)を水耕栽培により発芽させたおいしく栄養素に富んだにんにくで、においが残りにくいのが特長。りん片が通常のにんにくよりやや小ぶりでスマートなので、高級料亭などにも好まれて、普及するにつれて、急速にブランドイメージを高められるリッチでニッチな食材である。本事業では、下記の各項を推進することを通じて、芽子にんにくを活用した六次産業化を目指していく。

(1) 農業の機械化(青木村産にんにく)による高齢者の活用

一昨秋、休耕地を活用し、高齢の方、村内ベテラン農家の皆さまの協力のもと、にんにくの作付(約1ha弱)を終え、昨年6月、約1,000kg(乾燥後)を収穫した。この方々と一緒になって、作付・収穫の機械化を工夫し、作業の一層の軽減などを考えながら、耕作する方を増していった。収穫した地元産にんにくは水耕栽培し、地元産芽子にんにくとして、六次産業化の第一歩を踏み出した。

(2) 無農薬「芽子にんにく」プラントをコンピュータ化・システム化することによる軽作業化

現在、芽子にんにくの水耕栽培を行い、道の駅あおきを中心に販売している。栽培法などを工夫して、コンピュータ化・システム化を進め、新しく開発した生産管理ソフト・センサーネットワークにより、24時間・365日のコントロールを行って、成育段階に応じた環境制御を実施している。これにより、障がいのある方、女性、若い方にとっても作業負担の軽減、作業しやすい環境の整備をすすめ、予定休などが取りやすいワークライフバランスを保って働き方の工夫をして、持続可能な働く場所を作りながら、地元ブランド化を進行している。

(3) 地産地消ブランドとして普及

27年度は、道の駅あおきにおける、のべ30回を超える調理実演販売や特設店舗の運営、青木村主催の催事、ふるさと公園青木村のオープン記念祭などへの参加・出店、たちあかねそばとともに芽子にんにくのでんぷらを召し上がっていただくイベントなど展開した。さらに、銀座 NAGANO での催事など、青木村産の芽子にんにくを地産地消ブランドとしての普及する活動をすすめた。



【初めての作付】



【海上コンテナ冷蔵庫設置】



【収穫】



【産学共同 長野大学の皆さんと】

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ・青木村発のふるさと便に加えていただく
- ・長野大学環境ツーリズム学科の学生さんとコラボレーション
- ・独自制作 Web ページ「^{万 能 野 菜}Bannoyasai」でも PR+ネット通販
<http://bannoyasai.shop-pro.jp/>
- ・新聞、ラジオ、テレビなどのメディアで取り上げていただいた
上記などが大きな後押しとなり、少しずつではあるがリピーターの方
も確実に増えている。

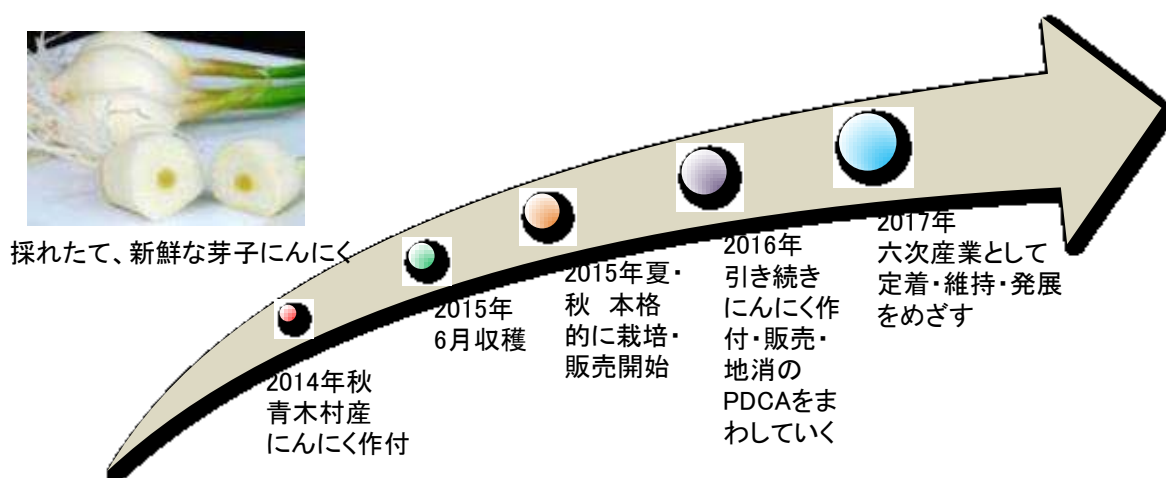


【テレビ信州 ゆうがた Get !出演】

事業効果



採れたて、新鮮な芽子にんにく



2014年秋
青木村産
にんにく作付

2015年
6月収穫

2015年夏・
秋 本格的に栽培・
販売開始

2016年
引き続き
にんにく作
付・販売・
地消の
PDCAをま
わしていく

2017年
六次産業として
定着・維持・発展
をめざす

【目標・ねらい】

(1) 農業の機械化(青木村産にんにく)による高齢者の活用

1) 地産にんにくの作付と収穫(予定)

27年度 作付 約 500Kg、収穫 約 1,000Kg

28年度 作付 約 600Kg、収穫 約 3,000Kg(予定)

2) 農業機械購入

27年度 小型耕うん機の機能を3つの機能に分けて購入

耕うん機:1台、管理機:1台、除草機:1台

これにより、作業の軽便化、省人化、効率化を実現

28年度 根すき機購入(予定) 収穫したにんにくの根の固い部分を削る仕上げ機

これにより、誰もが参入・作業できる環境を、より拓げていく。

3) 海上コンテナ型冷蔵庫

27年度 海上コンテナ型冷蔵庫(12フィート)を自費購入

①農業の機械化による高齢者との協働

②農業生プラントのIT化による軽作業化
で障がい者、高齢者、女性、若者の参
画推進

③六次化をめざし、地産地消ブランドとし
て普及

(2) 無農薬「芽子にんにく」(発芽にんにく)プラントをコンピュータ化・システム化

することによる軽作業化で障がい者、高齢者、女性、若者の雇用推進

1) 集荷コンテナトレイセット購入

27年度 400セット購入 にんにく収穫、集荷、栽培、保管、冷蔵、運搬に活用

28年度 にんにく収穫3倍増(計画)にともない300セット購入(予定)

たいへん重宝し、年間を通じて活用しているので、追加購入して、さらに活用する

2) 静音オイルコンプレッサー

27年度 1台を購入し、にんにく収穫時における泥取り、みがき、およびにんにく水耕の

前処理における薄皮むきに絶大な効果、仕上がり感、高効率化を実現している

28年度 さらに1台を購入して、障がい福祉施設(上田市・青木村)と共用するなど、より活動

範囲を拓げていく

3) 植物生産情報管理システム構築

- 27年度 無線化した温湿度センサ、ドア開閉センサとクラウドコンピュータシステムからなるセンサネットワーク、情報収集・データ蓄積・分析システム、異常感知・通報システム構築し、24時間・365日体制で運用中
- 28年度 気象データ、路地の環境データおよび監視カメラによる動画情報をセンサネットワークにより収集、蓄積、分析する機能を加えてよりインテリジェンス化する。野外での電力供給は、ソーラー発電・蓄電ユニットを利用する(予定)
- これにより、誰もが最初から栽培名人として活躍できる機能やデータを継続的に整備する。

(3) 地産地消ブランドとして普及

27年度 イベント開催および参加、集客

- 6/22(月)～6/30(火) にんにく収穫(アグリツーリズム)
- 9/18(金)～9/20(日) そば花・実祭り(特設店出店)
観客動員数 1,000人(芽子にんにく付そば実食 300食)
- 10/16(金)～10/18(日) にんにく作付(アグリツーリズム) のべ12人泊
- 11/13(金)～11/15(日) あおき農業祭(特設店出店) 観客動員数 10,000人
2/3(水) 節分祭り 観客動員数 500人

このほか、道の駅あおきにて30日を超える調理実演販売を実施した。

上記を引き続き行うとともに、芽子にんにくを使った料理教室の実施、販売店舗数を拡大するなど、さらなる普及環境を醸成し、ブランド化を進行していく。



28年度 イベント開催および参加 予定

- 6月 にんにく収穫(アグリツーリズム)
- 7月 ユニバーサルコンサート
「結」開催(東京 品川)
- 9月 そば花・実祭り(特設店出店)
- 10月 にんにく作付(アグリツーリズム)
- 11月 あおき農業祭(特設店出店)
- 2月 節分祭り



ユニバーサル
コンサート「結」ちらし



芽子にんにく商品群
(左)ガーリックオイル



(右)生鮮野菜
(右下)ガーリックチップ

今後の取組み

27年度事業計画・準備段階より、青木村さん、生産農家の皆さん、道の駅あおきの皆さんと具体的に計画を練り、行動した結果、年度当初より活発なアクションを起こすことができた。

具体的には、道の駅あおきにて30日を超える調理実演販売を実施したほか、上記のような生産、販売、PR活動をほぼ計画どおりに進めて、たくさんの障がい者の方、女性、高齢の方、地元の皆さんの力をたくさん借りることもできた。

28年度は、これらを引き続き行うとともに、芽子にんにくを使った料理教室を実施し、さらなる普及環境を醸成し、ブランド化を進行していく。

自己評価 【 B 】

前頁、目標・ねらいに対して、ひとまず、打ち上げが成功。次年度は、安定軌道に乗り、その次の拡大基調をめざす。
原料にんにくの生産面、乾燥調製、水耕栽培・加工品生産の高品質化、および、商品販売・ブランディング、産業としての地産、マーケティングとしての地消という課題に対しても、より地域の知恵と力を借りたり、引出したりして、引き続き、一緒になって行動していきたい。